

今月の安全運転管理

雨天時は スピード落として 安全運転

①雨天時の安全運転を指導しよう

- 梅雨期にあわせた車両点検を実施しよう
- 「急」のつく運転を排除してスリップ事故を防ごう

②災害発生時の体制を整えよう

- 防災マニュアル・緊急連絡体制を整備しよう



雨天時の安全走行を指導する

六月に入り、本格的な雨のシーズンを迎えます。雨天時は路面が滑りやすくなったり、視界が悪くなるなど、車を運転する際に悪条件が重なることから、晴天時より事故が起こりやすくなります。

そこで、次のことを指導して雨天時の安全走行に努めましょう。

- ・スピードを十分に落とす。
 - ・晴天時の二倍程度の車間距離を確保する。
 - ・急発進、急ブレーキ、急ハンドルといった「急」のつく運転は行わない。
 - ・見通しの悪い交差点などではしっかりと安全確認を行う。
- このほか、雨が降ると昼間でも周囲が薄暗いときがあるため、ヘッドライトを点灯して自車を目立たせることを周知しましょう。

雨に備えて入念なタイヤの点検を実施する

雨の中での車両点検は億劫になりがちですが、点検を怠ることで事故に結びつくおそれがあります。雨天時の走行で重要な役割を担うパーツを念入りに点検することを指導しましょう。

とくに、タイヤが摩耗しているとスリップ事故を起こすおそれがあるので、タイヤの残り溝、亀裂、空気圧などを入念に確認するように指示しておきましょう。万が、タイヤにスリップサインが出ていれば、すぐに交換しましょう。

また、フロントガラスやミラーについた水滴が視界を悪くするため、フロントガラスの清掃や撥水剤の塗布なども指導しておきましょう。あわせてワイパーの劣化具合やデフロスター、エアコンの作動状況も確認し、雨天時の視界を良好に保つように努めましょう。

災害発生時の社内ルールを整備しよう

近年、梅雨前線の活動が活発になり、長雨や集中豪雨が繰り返されることで、土砂崩れや地すべりなどの自然災害が発生しています。

もし、豪雨に見舞われてもあわてずに対応できるように、社内の防災マニュアルや緊急時の連絡体制を整えておきましょう。

管理者は、各自治体で公開しているハザードマップで自然災害による危険箇所などを確認し、事業所周辺や運行ルート等の状況を事前にチェックしましょう。また、管理者の指示が運転者に迅速に伝わるように連絡網を整備し、豪雨時は、気象情報や道路情報を活用して運転者に周知するとともに、安全なルートを選択するよう指示しましょう。